

# 平成 10 年度の漁況

安木茂・道根淳・池田博之・由木雄一・村山達朗

## 1. まき網漁業

### (1) 漁獲量の経年変化

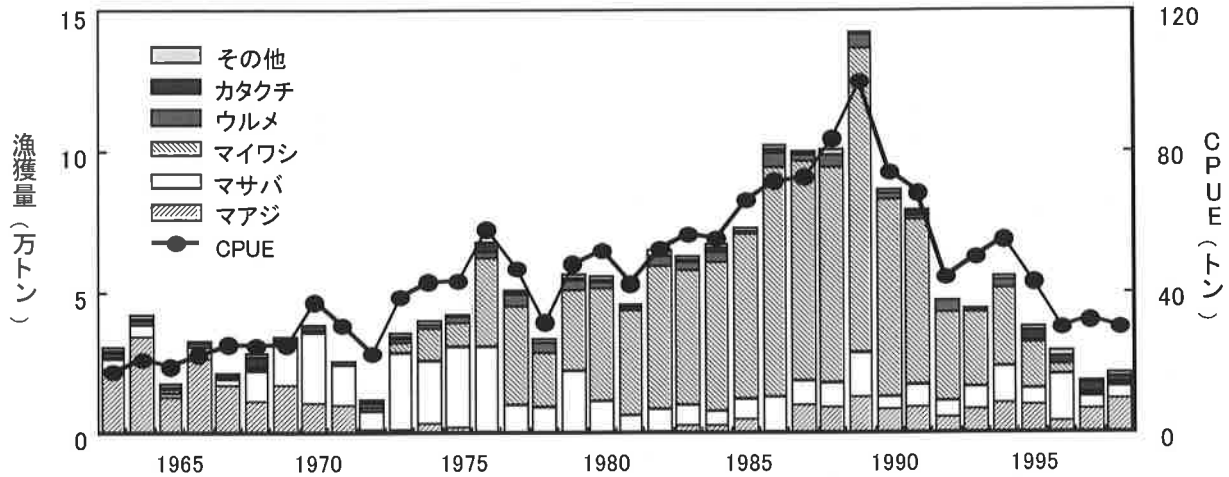


図1 浜田港所属の中型まき網船による魚種別漁獲量とCPUEの推移

図1に1963年(昭和37年)以降の浜田港のまき網漁業における主要5魚種の漁獲量と1日1統当り漁獲量(CPUE)の経年変化を示す。1998年(平成10年)の漁獲量は20,624トンで、過去36年間で3番目に低い値となった前年を上回ったものの低水準にとどまった。浮魚類の漁獲量は1989年をピークに減少傾向で、その主な要因としては漁船数の減少、マイワシ資源の減少、マアジ・マサバ等マイワシに替わる魚種の漁獲の伸び悩みである。

### (2) 魚種別漁獲状況

図2~6に中型まき網によるマアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシの漁獲量の平年値(過去5ヶ年平均)、前年及び今年の季節変化を示す。

#### ①マアジ

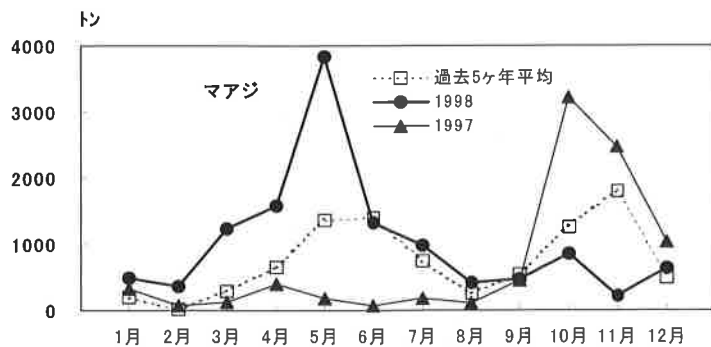


図2 浜田の中型まき網によるマアジ漁獲量

図2に浜田港のまき網漁業によるマアジ漁獲量の季節変化を示す。1998年の総漁獲量は12,423トンで平年の138%、前年の144%となり、平年・前年を大きく上回った。春から夏にかけては尾叉長15cm程度の1歳魚が、秋から冬は9~15cmの0歳魚が中心であった。漁獲の大きな山が5月を中心とした春から初夏にかけて見られ、前年の秋に多く漁獲された0歳魚(1997年級)がそのまま漁獲に反映されたと考えられる。しかし、夏以降の漁獲は伸びず、8~12月の漁獲量は前年の36%、平年の60%にとどまった。これは、漁獲の主体である0歳魚(1998年級)の加入量が少なかったのではないかと推察される。東シナ海から日本海南西部にかけての海域

105 843 931 903

でも秋のマアジ0歳魚の漁獲は伸び悩み、対馬暖流域全体での1998年級のマアジ資源水準は低かったと考えられる。

### ②マサバ

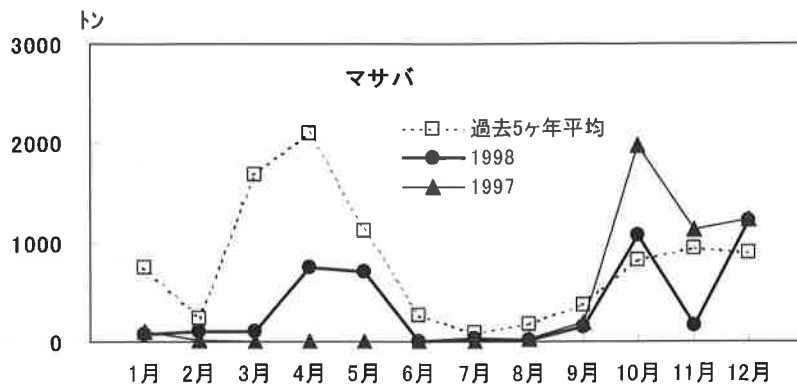


図3 浜田の中型まき網によるマサバ漁獲量

図3に浜田港のまき網漁業によるマサバ漁獲量の季節変化を示す。

1998年の総漁獲量は4,374トンで平年の46%、前年の94%となり、平年・前年を下回った。漁獲の主体は尾叉長25cm前後の豆サバ(0~1歳魚)であり、2歳魚以上の高齢魚の漁獲は少なかった。漁獲のピークは春と秋の2

回見られたが年間を通して漁況は低調に推移した。

### ③マイワシ

図4に浜田港のまき網漁業によるマイワシ漁獲量の季節変化を示す。

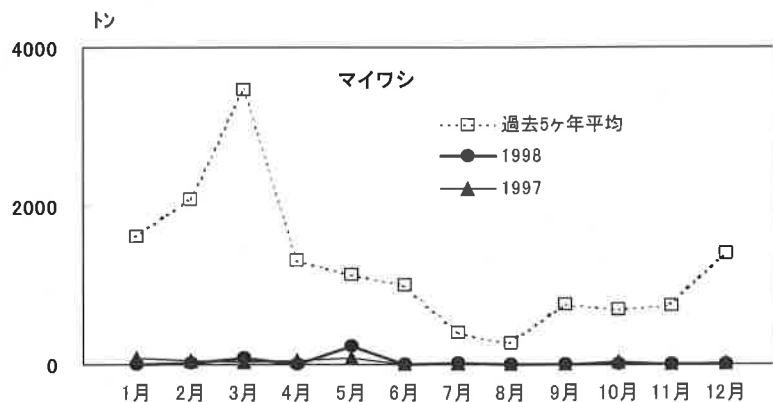


図4 浜田の中型まき網によるマイワシ漁獲量

1998年の総漁獲量は356トンで平年の2%、前年の98%であった。平年と比較すると依然として低い水準であるが、前年と比較すると減少傾向はおさまったように見える。漁獲の主体は小羽・中羽イワシであった。全国的にマイワシ資源の減少が叫ばれて久しいが、依然として低水準状態であるものの、沿岸海域では局所的にややまとまった漁獲が見られることもあり、資源の減少傾向に歯止めがかかってきている可能性もある。

### ④カタクチイワシ

図5に浜田港のまき網漁業によるカタクチイワシ漁獲量の季節変化を示す。カタクチイワシの漁獲量は1995年以降冬期を中心として、3,000トンから3,500トン程度の漁獲があり、漁獲量が減少しているマイワシに替わって漁獲されている

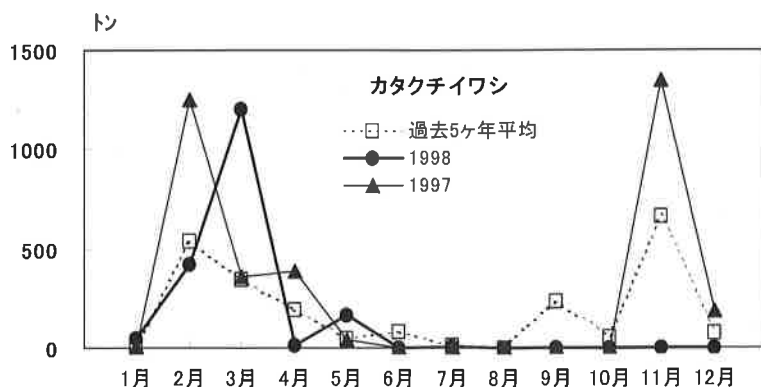


図5 浜田の中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量

魚種の一つである。

1998年の漁獲量は1,858トンとなり、平年の82%、前年の52%とやや低調に推移した。漁獲の季

節変化を見ると、3月にピークが見られ、例年のような秋のピークは見られなかった。秋漁の不振で漁獲量が減少したものの、対馬暖流域全体での資源動向は増加傾向にあると考えられており、多少の増減があるもののしばらくは高い資源水準を維持するものと思われる。

### ⑤ウルメイワシ

図6に浜田港のまき網漁業によるウルメイワシ漁獲量の季節変化を示す。

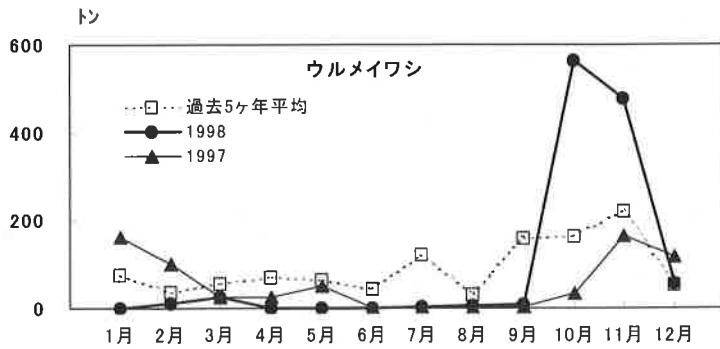


図6 浜田の中型まき網によるウルメイワシ漁獲量

ウルメイワシは、島根県沿岸域での漁獲量はそれほど多くないが、年変動が比較的少なく毎年200~500トン程度の漁獲がある。1998年の漁獲量は1,153トンで平年の106%、前年の170%と好調に推移した。漁獲の季節変化を見ると10~11月にかけて大きなピークが見られた。

## 2. イカ釣り漁業

### (1) スルメイカ

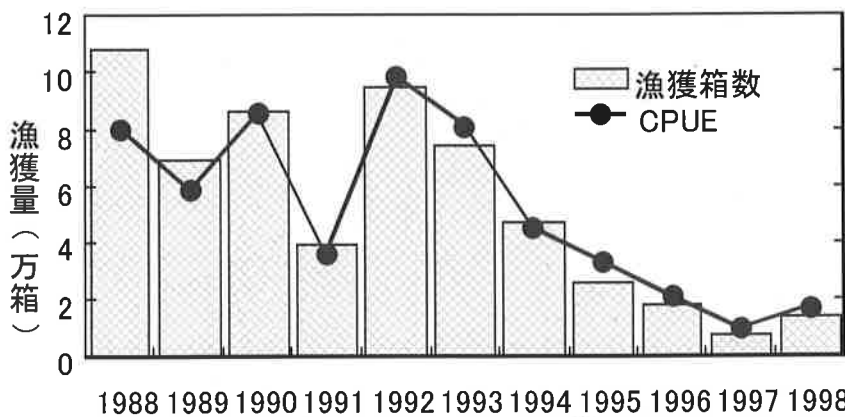


図7 沿岸小型船によるスルメイカ漁獲量の年変動

図7に島根県西部の沿岸域を主漁場とする、小型イカ釣り船によるスルメイカの漁獲量(箱数)とCPUE(一日一隻当たりの漁獲量)を示す。

島根県西部の沿岸域を主漁場とする、小型船によるスルメイカの漁獲量は、1992年から1997年までは減少傾向が続いていたが、1998年は僅かではあるが増加に転じた。総漁獲箱数は14,028箱で、前年(7,123箱)を上回った。

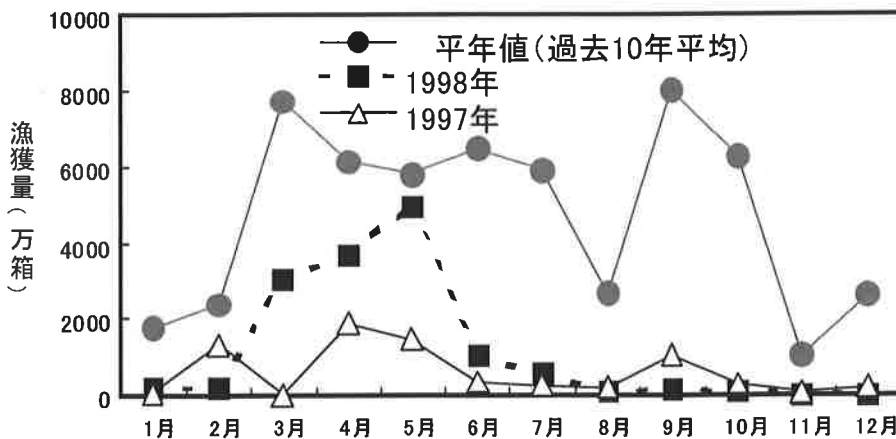


図8 沿岸小型イカ釣り船によるスルメイカ漁獲量の月変化

図8に島根県西部沿岸域を漁場としている、小型イカ釣り船による月別の漁獲動向を示す。

例年、春から夏にかけては、前年の夏に発生したと考えられる、いわゆる夏生まれ群

を漁獲の主対象とし、夏から秋にかけては、前年の秋に発生したと考えられる、いわゆる秋生まれ群を漁獲の主対象としている。しかし、近年はケンサキイカ漁が好調なこともあって、秋のピークは見られない。1998年は春漁が好調であったため、前年を大きく上回った。近年、対馬暖流域におけるスルメイカ資源（主に秋生まれ群）は比較的高水準が続いていた。ところが、1998年の漁場一斉調査では日本海全域でのスルメイカ資源の指標となる平均的なCPUE（釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は8.6で、前年（21.7）から大きく減少し、それに同調するように日本海でのスルメイカ漁獲量も大きく落ち込んだ。島根県西部海域におけるスルメイカ漁が、いわゆる夏生まれ群を主対象としているのに対し、日本海全域ではいわゆる秋生まれ群が主対象で、発生時期の異なる両者の漁模様は大きく明暗を分ける形となった。

## （2）ケンサキイカ

図9に沿岸域を主漁場とする、小型イカ釣り船によるケンサキイカの漁獲量とCPUE（1日1隻当たりの漁獲量）を示す。

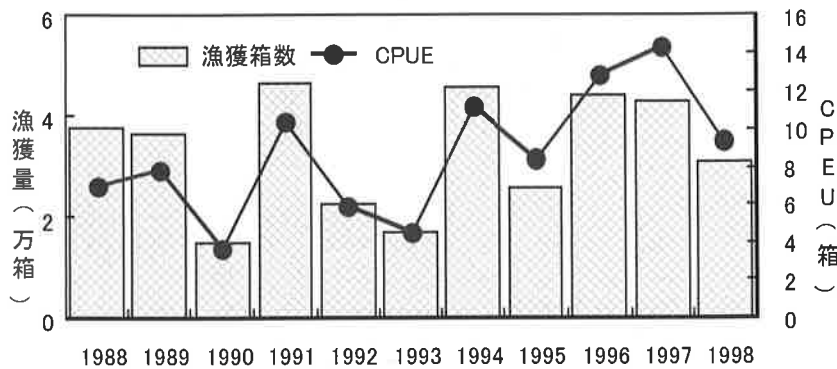


図9 沿岸小型船によるケンサキイカ漁獲量の年変動

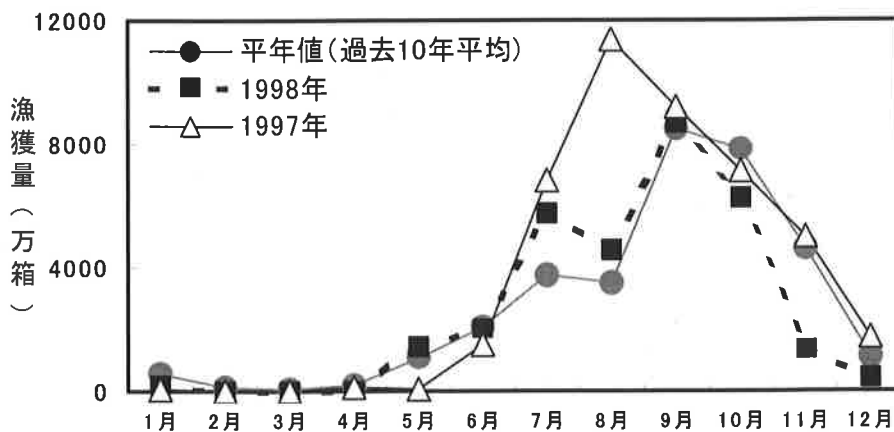


図10 沿岸小型イカ釣り船によるケンサキイカ漁獲量の月変化

ケンサキイカは夏から秋にかけて漁獲のピークが見られ、山陰沿岸ではスルメイカと並んで重要なイカ釣り対象種である。漁獲量は3万箱前後で推移している。1998年は前年（43,011箱）を下回り、30,694箱にとどまった。

図10に島根県西部沿岸域を漁場とする、小型イカ釣り船による月別の漁獲動向を示す。

1998年はほぼ年平均並みの漁獲状況となったが、若干終漁期が早く、11月に大きく落ち込んだ。

島根県西部沿岸域でのケンサキイカ漁は、1960年代後半から1980年代にかけては、6・7月、9・10月の両方にピークが見られる2

峰型の季節変化を示しており、6・7月の山のほうが高い傾向があった。しかし、1990年以降、9・10月のみにピークが見られる単峰型の季節変化となっており、漁獲のパターンが変化してきている。

### 3. 沖合底びき網漁業

本漁業は東経 128 度以東の対馬周辺から日本海西部を漁場としており、8 月 16 日から翌年 5 月 31 日まで操業を行なう（なお、6 月 1 日から 8 月 15 日までは禁漁期間）。ここでは統計処理上、漁期年を用いる。1 漁期は 8 月 16 日から翌年 5 月 31 日までである。

#### (1) 全体の漁獲動向

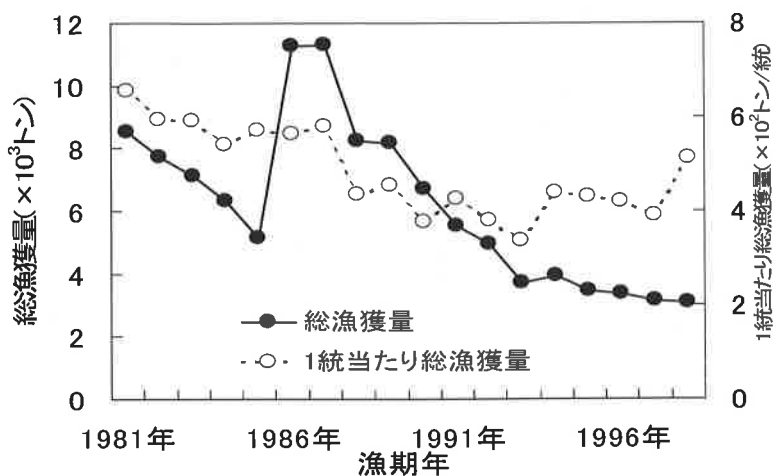


図 11 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における総漁獲量と 1 統当たり総漁獲量の経年変化。

図 11 に 1981 年以降の浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における総漁獲量と 1 統当たり漁獲量(以下、CPUE という)の経年変化を示す。

総漁獲量は、1981 年から 1985 年にかけて減少した後、1986 年に一時的に急増しているが、これはこの年 7 月に漁協統合が行なわれ、浜田市漁協所属の底びき船が増加したためである。その後、倒産・廃業および自主減船(1991 年)により稼働数が減少するとともに、総漁獲量も急激に減少した。1993 年以降、年毎の減少幅は小さくなったが、依然減少傾向にあり、近年

では 3,000 トン前後で推移している。

一方、CPUE は 1982 年から 1987 年にかけて 570 トン/統前後で安定的に推移していた。1988 年には一時急減したが、その後、1997 年にかけて年変動はあるものの 400 トン/統前後で安定推移している。

稼働数は 1997 年漁期終了後 2 ヶ統が廃業したため、1998 年には 6 ヶ統となった。総漁獲量は 3,063 トンで前年をわずかに下回ったが、CPUE は 510 トン/統で、前年を 31%、平年(1981 年～1997 年平均)を 9%上回った。CPUE が 500 トン/統台を超えるのは 1987 年以來のことである。また、総水揚げ金額は 14 億 1,839 万円で前年を 14%下回ったが、CPUE は 2 億 3,600 万円/統で前年を 15%上回り、最近 10 年間では最高の水揚げとなった。1998 年漁期の場合、9、10 月を除く全ての月で CPUE が平年を上回っており、漁期を通して漁況が好調に推移したことがうかがえる。

#### (2) 主要魚種の漁獲動向

##### ①カレイ類

図 12 にカレイ類の CPUE の経年変化を示す。カレイ類全体の変動は 1981 年から 1988 年にかけてはムシガレイの増減が、1989 年以降はソウハチの増減がそれぞれ影響している。1981 年から 1988 年にかけて減少傾向にあったが、1989 年には一時的に増加した。その後、1990 年代になってからは数年おきに不漁となる年が見られるが、120 トン/統前後で推移している。1998 年のカレイ類全体の漁獲量は 734 トンで、稼働数が減少したにも関わらず前年をわずかに上回った。CPUE は 122 トン/統で前年を 34%上回った。

ムシガレイの CPUE は 1981 年から 1988 年にかけて減少傾向にあった。1989 年以降、周期的な変動が見られるが、40 トン/統前後で推移している。1998 年の漁獲量は 212 トン、CPUE は平年を 29.5%下回る 35 トン/統であった。

ソウハチの CPUE は 1982 年から 1988 年にかけて 50 トン/統前後で安定的に推移していた。その後、

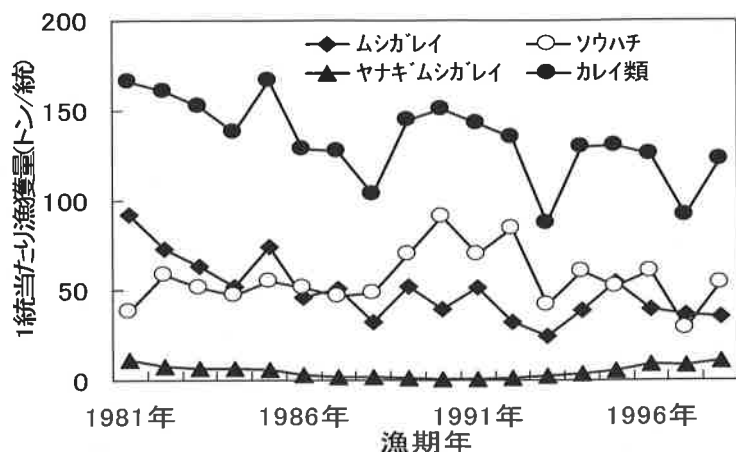


図12 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業におけるカレイ類の1統当たり漁獲量の経年変化。

始めて10トン統を越える水揚げがあった。

② イカ類

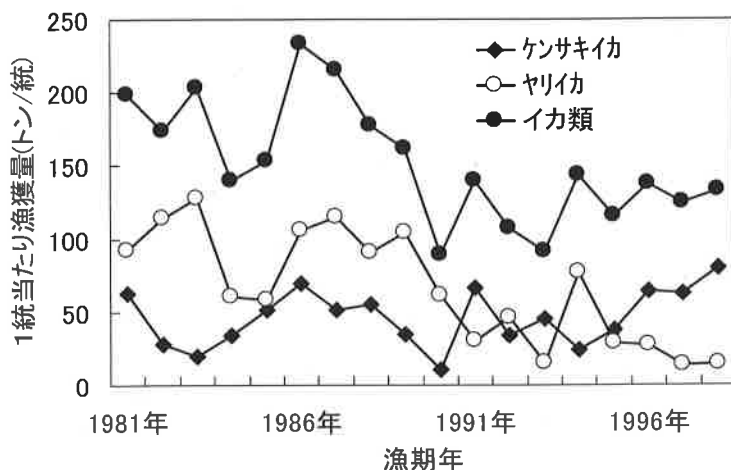


図13 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業におけるイカ類の1統当たり漁獲量の経年変化。

80トン統で平年の1.8倍の水揚げがあり、1981年以降最高の水揚げであった。今年(1998年)は漁獲ピークが8～10月、2～5月に見られ、特に2月にはこの時期としては珍しく12トン統を超える水揚げがあった。

一方、近年資源的に低水準状態にあるヤリイカのCPUEは増減が見られるが、長期的には減少傾向にある。1998年の漁獲量は85トンで1981年以降初めて100トンを超える水揚げとなった。CPUEは14トン統で前年をわずかに上回ったが、平年の20%に留まり、依然資源回復の兆しが見られない状況にある。

③ その他

図14に沖合底びき網漁業で漁獲されるカレイ類、イカ類以外の主要魚種におけるCPUEの経年変化を示す。

1990年にかけて一時的に増加したが、1990年を境に減少傾向にある。1998年の漁獲量は321トン、CPUEは1981年以降最低の水揚げであった前年を大きく上回る53トン統であった。

ヤナギムシガレイのCPUEは1981年以降減少傾向にあり、1990年には0.8トン統まで落ち込んだ。その後、緩やかな増加傾向を示し、1998年には10トン統を超えるまでに回復した。1998年の漁獲量は平年を22%上回る64トン、CPUEは11トン統で平年の2.3倍の水揚げがあり、1981年以来、

図13にイカ類のCPUEの経年変化を示す。イカ類全体の変動は1981年から1985年にかけて減少傾向にあった。しかし、1986年にヤリイカの漁獲増加に伴い急増し、ピークを迎えた。その後、ヤリイカの漁獲量が減少するにしたがい、イカ類全体のCPUEも減少した。最近ではケンサキイカの好漁により130トン統前後の安定した水揚げがある。

ケンサキイカのCPUEは数年周期で増減が見られ、最近年は増加傾向にある。1998年の漁獲量は481トン、CPUEは

キダイのCPUEは1981年から1989年にかけて漸減傾向にあったが、1990年以降は急激な増加傾向にある。1998年の漁獲量は247トンで平年の3倍、CPUEは41トン/統で平年の5.3倍の水揚げがあり、

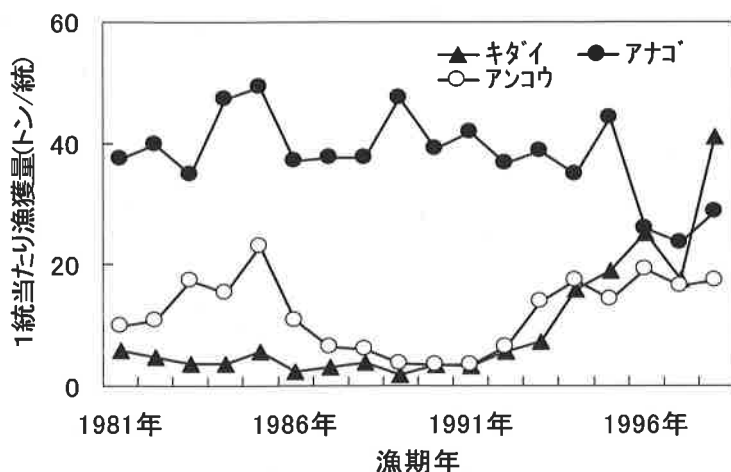


図14 浜田港と基地とする沖合底びき網漁業における主要種の1統当たり漁獲量の経年変化。

前後で安定推移している。1998年の漁獲量は104トン、CPUEは平年の1.5倍の17トン/統の水揚げがあった。

漁獲量、CPUEとも1981年以降最高の水揚げであった。

アナゴのCPUEは1981年から1995年にかけて年変動は大きいものの、40トン/統前後で比較的安定的に推移していた。しかし、1996年に急減した後は25トン/統前後で推移している。1998年の漁獲量は172トン、CPUEは29トン/統で前年をわずかに上回ったが、平年の75%に留まっている。

アンコウのCPUEは周期的に変動しており、1980年代後半から1990年代前半にかけて増加した後は16トン/統